佐久市埋蔵文化財調査報告書第50集

FUZIZUKA

藤塚遺跡III

長野県佐久市大字塚原字藤塚遺跡発掘調査報告書

1997.3

与志本林業株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書第50集

FUZIZUKA

藤塚遺跡III

長野県佐久市大字塚原字藤塚遺跡発掘調査報告書

1997.3

与志本林業株式会社
佐久市教育委員会

例　　言

1　本書は平成８年度与志本林業株式会社による資材置場造成工事にともなう、佐久市大字塚原に所在する藤塚遺跡IIIの発掘調査報告書である。

2　事業主体者　与志本林業株式会社

3　調査主体者　佐久市教育委員会　教育長

4　遺跡名及び発掘調査所在地籍

藤塚遺跡III（略称TFZIII）　　佐久市大字塚原字藤塚1545－１外

5　調査期間　平成８年４月15日～平成８年４月22日（現場作業）

平成８年12月10日～平成９年３月31日（整理作業）

6　面　　積　200m²

7　調査体制

教　育　長	依田　英夫
教育次長	市川　源
埋蔵文化財課長	北沢　元平
管理係長	楜沢　慶子
埋蔵文化財係長	大塚　達夫
管　理　係	田村　和広
埋蔵文化財係	林　幸彦　三石　宗一　須藤　隆司　小林　眞寿 羽毛田　卓也　冨沢　一明　上原　学
調　査　員	小林　百合子　花里　四之助　花里　三佐子 比田井　久美子　細谷　秀子　武者　幸彦

8　第II章　遺跡周辺の地形・地質は佐久市埋蔵文化財調査報告書第26集「藤塚古墳群・藤塚II」と大半が重複するため若干の修正を得て掲載した。

9　本書の執筆・編集は上原が行った。

10　本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1　遺構の略称　　H－竪穴住居址　D－土抗

2　挿図の縮尺　　遺構　　竪穴住居址1/80　土抗1/60　　遺物　　土器1/2

3　遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。

4　土層・遺物等の色調は「新版標準土色帖」による。

5　実測図・写真の遺物Noは一致する。

6　グリッドは国家座標に準じ、大グリッド40×40m・小グリッド４×４mである。

目　　次

例　　言

凡　　例

目　　次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯……1

　第１節　発掘調査の経緯と経過……1

第Ⅱ章　遺跡の立地と基本層序……3

　第１節　遺跡周辺の地形・地質・基本層序……3

第Ⅲ章　遺構と遺物……5

　第１節　竪穴住居址（H）……5

　第２節　土抗（D）……8

　第３節　遺構外遺物……9

まとめ

挿　図　目　次

第１図　佐久市位置図……1

第２図　藤塚遺跡Ⅲ位置図……1

第３図　遺構配置図……2

第４図　基本層序模式図……4

第５図　Ｈ１号住居址実測図……5

第６図　Ｈ１号住居址出土遺物実測図……6

第７図　Ｄ１号土坑実測図……8

第８図　Ｄ２号土坑実測図……8

第９図　Ｄ２号土坑出土遺物実測図……9

第10図　遺構外出土遺物実測図……9

写１　藤塚遺跡Ⅱ調査風景……2

写２　藤塚遺跡Ⅲ遠景……4

写３　Ｈ１号住居址……5

写４　Ｈ１号住居址遺物出土状況……5

写５　Ｈ１号住居址出土遺物……6

写６　Ｈ１号住居址出土遺物……7

写７　Ｄ１号土坑……8

写８　Ｄ２号土坑……8

写９　Ｄ２号土坑出土遺物……9

写10　遺構外出土遺物……9

写11　Ｈ１号住居址遺物出土状況……10

写12　藤塚遺跡Ⅲ調査区全景……10

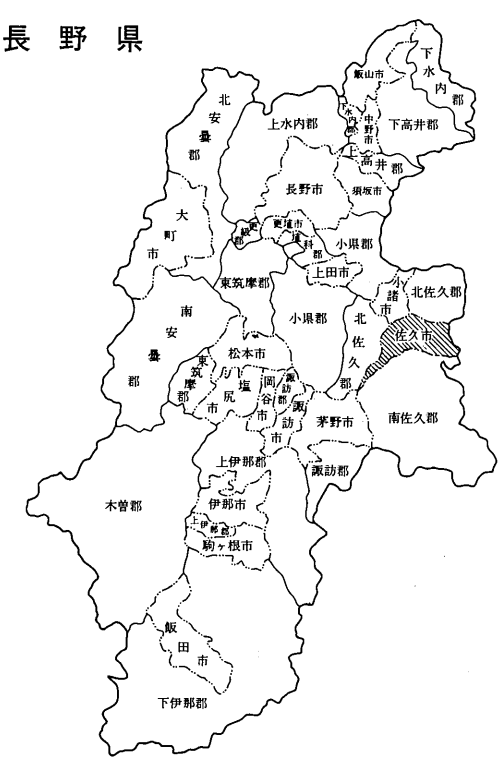
第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査の経緯と経過

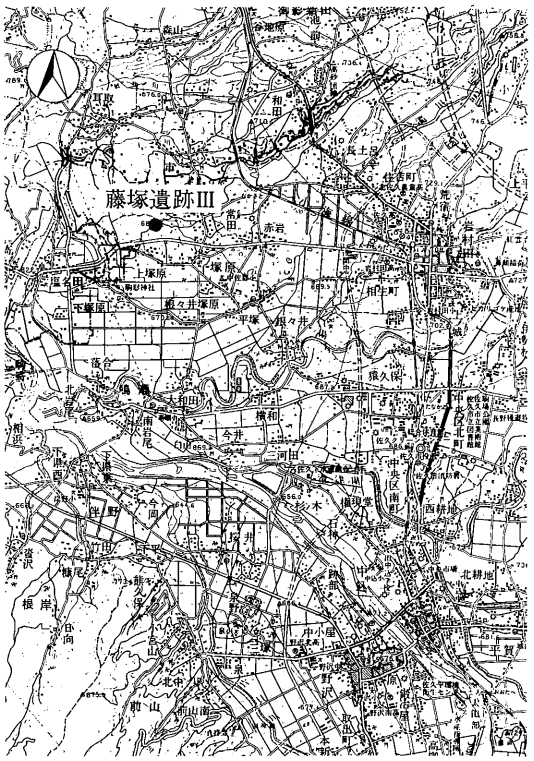
藤塚遺跡は佐久市大字塚原・常田に所在し、標高670m付近の比較的平坦な台地上に位置する。遺跡の西方には千曲川が北方から南方に流れており、遺跡の南方を東方から西方に流れる湯川と遺跡の北西２km付近で合流している。

藤塚遺跡内では、昭和62年に佐久市埋蔵文化財センターによって、新町工場用地進入路新設工事に伴う試掘調査が行われ、土器を数片出土した他、平成３年には佐久市教育委員会によって、与志本林業株式会社による資材置場・加工場建設にともなう調査が行われ、古墳及び古墳時代の住居址など多くの遺構が確認されている。

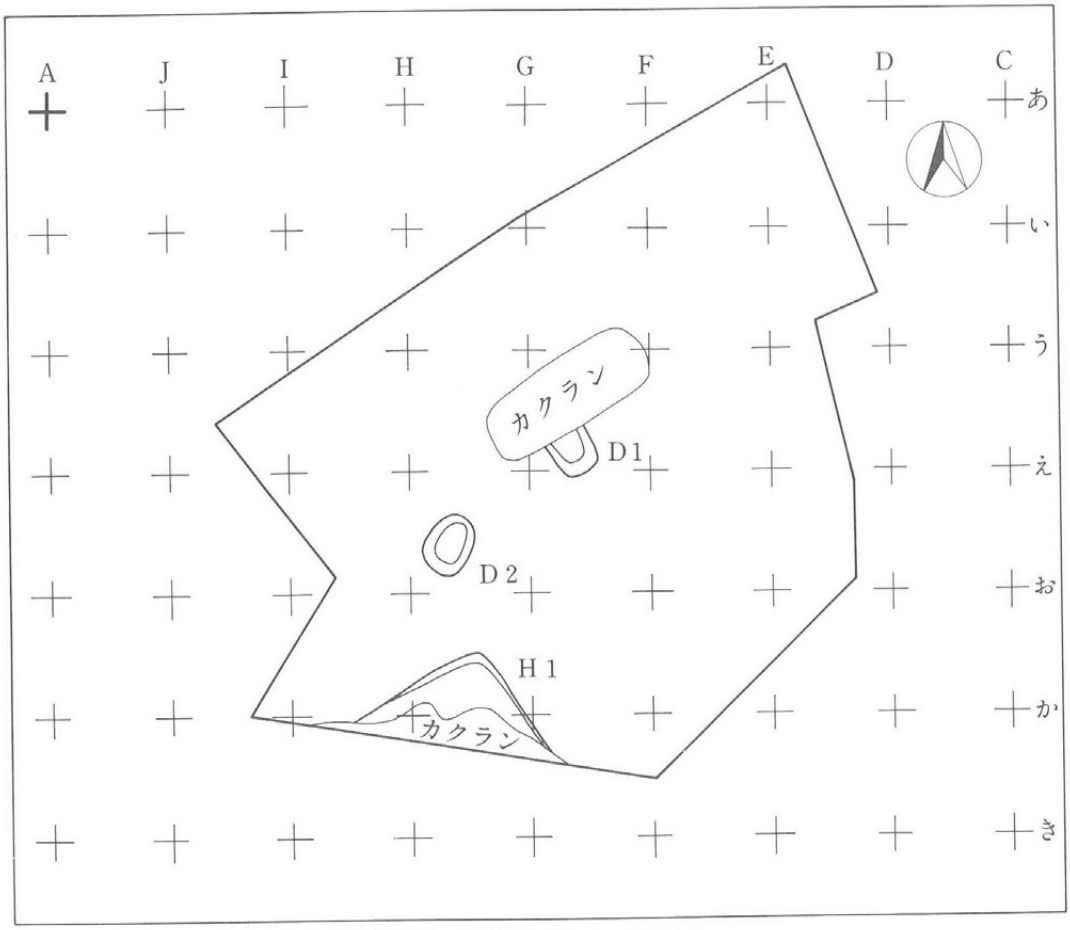
今回、与志本林業株式会社による、資材置場造成事業が行われることとなり、試掘調査を行った。その結果遺構の存在が認められたため、記録保存を目的とし与志本林業株式会社から委託を受けた佐久市教育委員会が主体となり、発掘調査を行う運びとなった。



第１図　佐久市位置図



第２図　藤塚遺跡Ⅲ位置図(100,000)



第３図　遺構配置図（1：2,500）

写１　藤塚遺跡Ⅱ調査風景（平成４年）　左上、駐車場の上の木周辺が今回の調査区

第II章　遺跡の立地と基本層序

第１節　遺跡周辺の地形・地質・基本層序

佐久市付近の地質図を見ると、東側には第三紀の荒船火山を含む関東山地に連なる山々がある。西側の千曲川左岸は、第三紀の小諸層群の上を八ヶ岳火山類が覆い御牧原に連なっている。この間に広がる佐久平は、滑津川より北では第一軽石流と塚原泥流が分布している。御代田町馬瀬口から小諸市森山を結ぶ線から北では第二軽石流があらわれる。佐久平北部で特徴的な田切地形は、第一、第二軽石流の分布域に限られており、ほぼ、北東から南西の方向に刻まれている。北東方向の追分原に田切地形が消滅しているのは、おもに1108年の噴出による追分火砕流によって田切が埋めつくされたからである。岩村田の住吉町から長土呂にかけて、また、長土呂の西・常田の北の辺りで田切地形が消滅しているのは、ここより南は、いわゆる「塚原泥流」の分布域で第一軽石流が及んでいたからである。塚原泥流、第一軽石流、第二軽石流、追分火砕流はいずれも浅間山の崩壊物質と噴出物であり、この順に新しくなる。

塚原泥流堆積物は岩村田の西方から千曲川までの間の約10平方キロメートルに分布している。発掘調査地点は塚原泥流の西の端に近く、流山の最西端である。「塚原泥流」の語感は多量の水の存在を連想させるが、実体は黒班成層火山の東側で発生した大規模な水蒸気爆発により崩壊した山体の堆積物であり、乾いて冷たい「岩屑流」であった。ここには、高さ数メートルから数十メートルの「流れ山」が数多く見られるのが特徴で、塚原、平塚、赤岩などの地名は、いずれもこの地形によるものである。後述するように、ここは岩屑流の末端近くで周辺に比べて高かったのである。

現在見られる「流れ山」の地形は、凹凸の激しかった堆積物の表面を新しい沖積堆積物が覆ったために最も高い突起部だけが小丘として残ったものである。「流れ山」はその分布域の東側のものは比較的小さく、幾つかは圃場整備で姿を消している。西側の常田周辺では大きなものが多く、居住として利用されているものも多い。「流れ山」の形成された年代、すなわち、黒班山が比高500mに及ぶ山体崩壊に見舞われたのは炭素14法による測定で約22,500年前のことである。これは4つの試料について京都産業大学で行われた測定値の平均で、中佐都小学校出土のそれは23,400±300B、Pであった。試料の採取地点は根々井の湯川右岸、三河田の滑津川右岸と中佐都小学校の地下である。

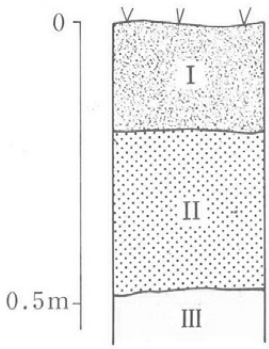
塚原泥流堆積物の厚さは中佐都小学校で約20メートルである。小学校建設にともなうボーリング・コアが保管されており、地下19.5メートル以深には当時の地表面が姿を表す。当時の地表面

は多くの有機質を含み高層湿原の様相を呈していたようにみえる。このサンプルを野沢北高等学校生物クラブが花粉分析を行ったが、それによると、ハンノキ・カンバ・モミ・ツガ属の花粉の他にマツ・イネ科の花粉も検出されている。当時がヴュルム最終氷期の最寒冷期に近かったことをこれ等の花粉も裏づけている。現在の気候では標高1500メートルぐらいに相当するように見える。20メートルの深さにはＡＴ（始良テフラ：約22,000年前の鹿児島湾最北部起源の火山灰）が確認できる。

「塚原泥流」の西側を除く北・東・南側には約13,600年前噴出の第一軽石流が分布している。この時の噴火で多量の火山灰が成層圏まで吹き上げられ、上空の偏西風にのって北関東の広い範囲に板鼻黄色軽石層（ＹＰ）を堆積させた。上空まで上昇しきれずに途口から火口付近に落下した多量の火山灰と軽石は、自から発するガスとの混合物となって高速の火砕流となり佐久平を完全に埋めつくした。第一軽石流は厚いところは30メートルに達するが、これによって千曲川が堰とめられて大きな湖が出現したことは湯川と滑津川の河岸で水成層として認めることができる。第一軽石流が塚原泥流を避けた理由は次のとおりである。塚原泥流はその先端近くに小高い堆積丘を残した。その後の第一軽石流は地表の凹凸を埋め、なだらかな現在見られるような地表面を作った。長土呂地籍の北の深井戸では地下25メートルの第一軽石流が埋めて平滑化されたことを意味するのである。

写２　藤塚遺跡Ⅲ遠景

以上佐久地域周辺の地形地質等について述べてきたが、今回の調査区地域の地形・地質基本層序等について若干述べておく。調査対象地域は小高い丘状を呈し、付近には平成３年に調査された藤塚古墳を始め、多くの古墳が存在する。このため調査区一帯の小高い地域は以前から古墳であろうと考えられていた。しかし、発掘調査に先立ち試掘調査を行った結果、この墳丘と見える丘は、先にも述べたような塚原泥流の上面を第一軽石流が覆った際に残った小高い丘であり、この地域特有の「流れ山」であることが確認できた。よって、今回の調査区の層序は、基本的には塚原泥流とその上面を覆う第一軽石流との組み合わせであり、その上面に耕作土が覆うという形であることが認められた。



Ⅰ層　10YR3/2 黒褐色土
表土

Ⅱ層　10YR2/3 黒褐色土
粘性なし、小礫多量に含む。粒粗い。

Ⅲ層　10YR5/6 黄褐色土
パミス、礫含む。
（Ｐ１層）

第４図　基本層序模式図

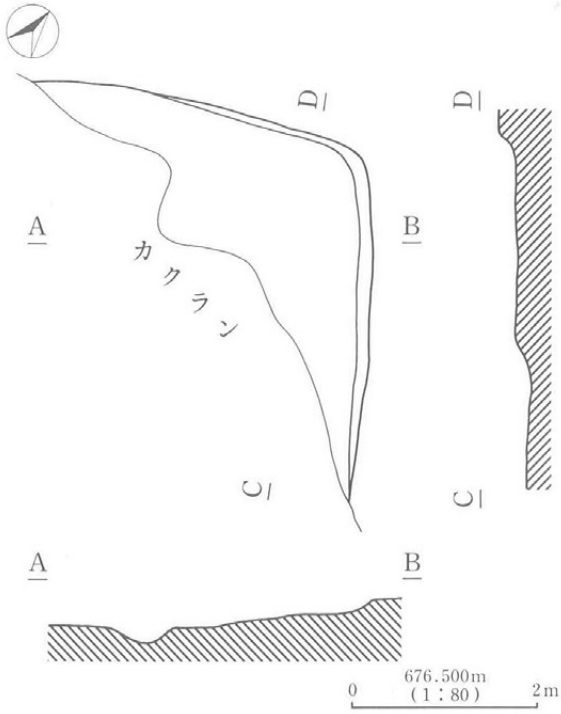
第Ⅲ章　遺構と遺物

第１節　竪穴住居址

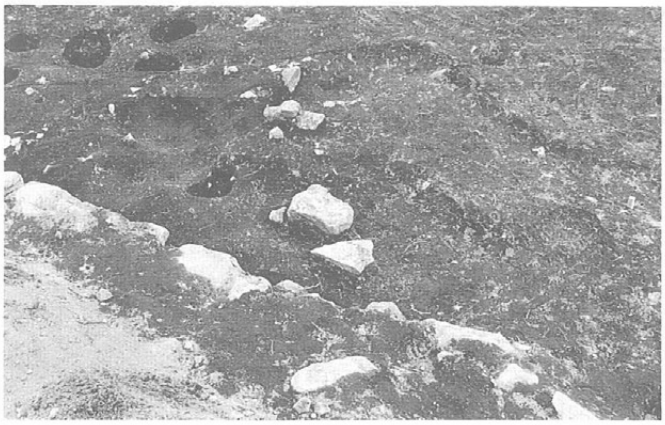
Ｈ１号住居址

遺構はＧ－おグリット付近の緩斜面上に位置し、遺構の南側は農道によってそのほとんどを削り取られている。

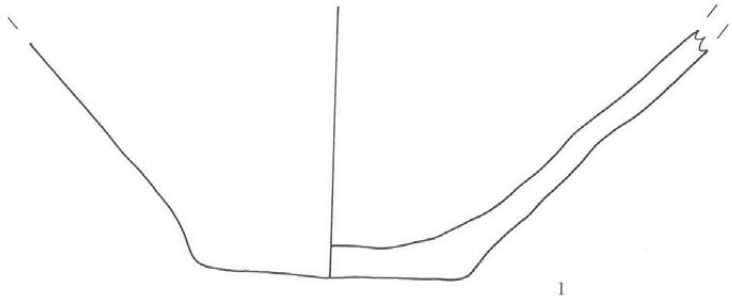
残存規模は住居址全体の３分の１程度であり、深さは10cm内外を測る。平面形は隅丸の方形を呈していたと思われる。床面は僅かに堅さを持つが、確認された床面も畑作による多くのピットなどにより破壊されている。炉などの施設は確認できなかったが床面上から多くの土器片を出土した。これらの遺物は土師器を中心としたもので、１は甕の底部で内面が赤色である。２は坏または高坏の坏部と考えられ内外面ともにミガキを施す。３は甕の口縁、４は甕の頸部である。５～18は甕の体部、19～26は同じく甕の体部だが、内面が赤色である。27、28は甕の底部で内面は赤色である。29は甕の体部で外面赤色塗彩を施す。



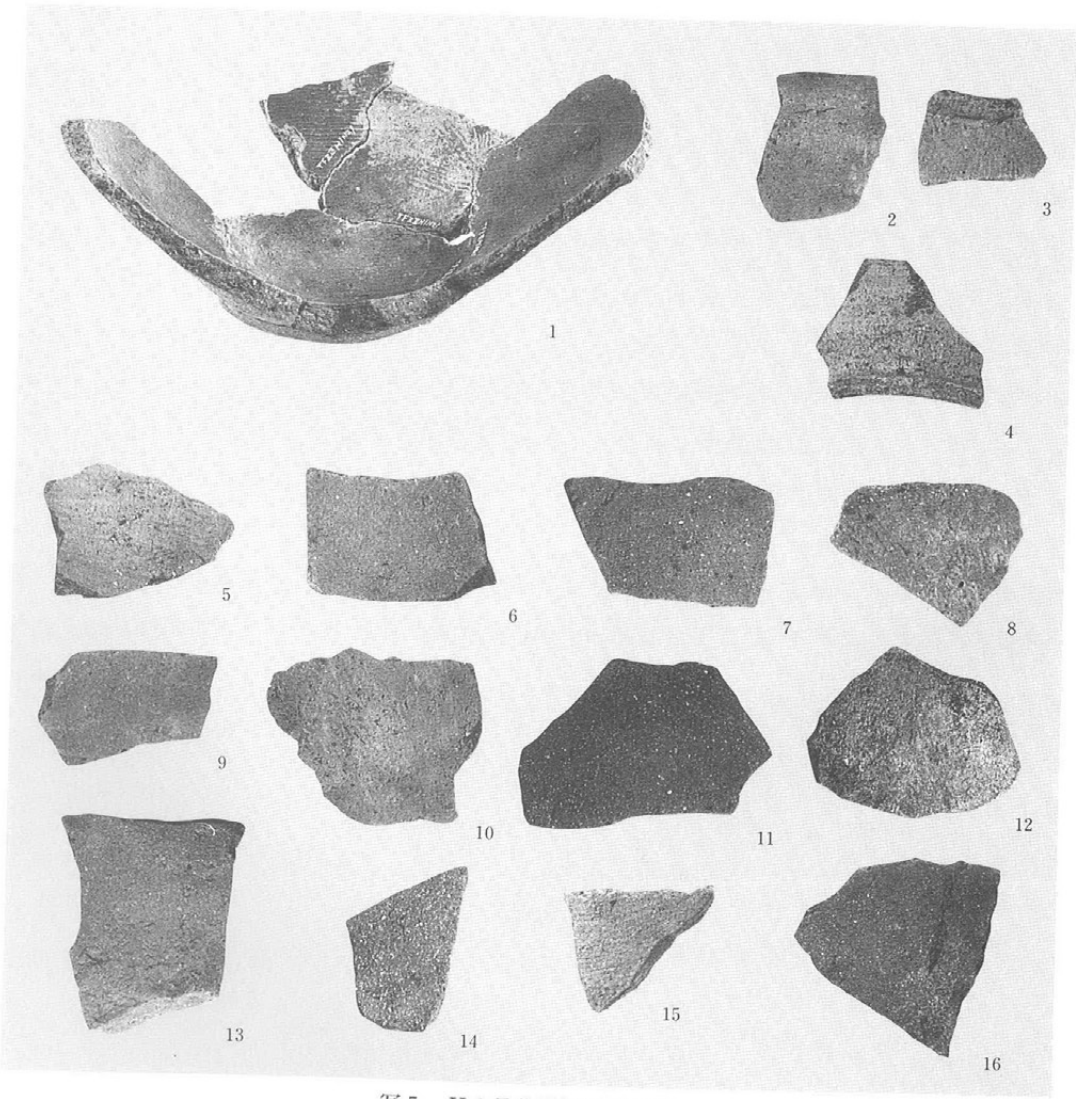
第５図　Ｈ１号住居址実測図


写３　Ｈ１号住居址

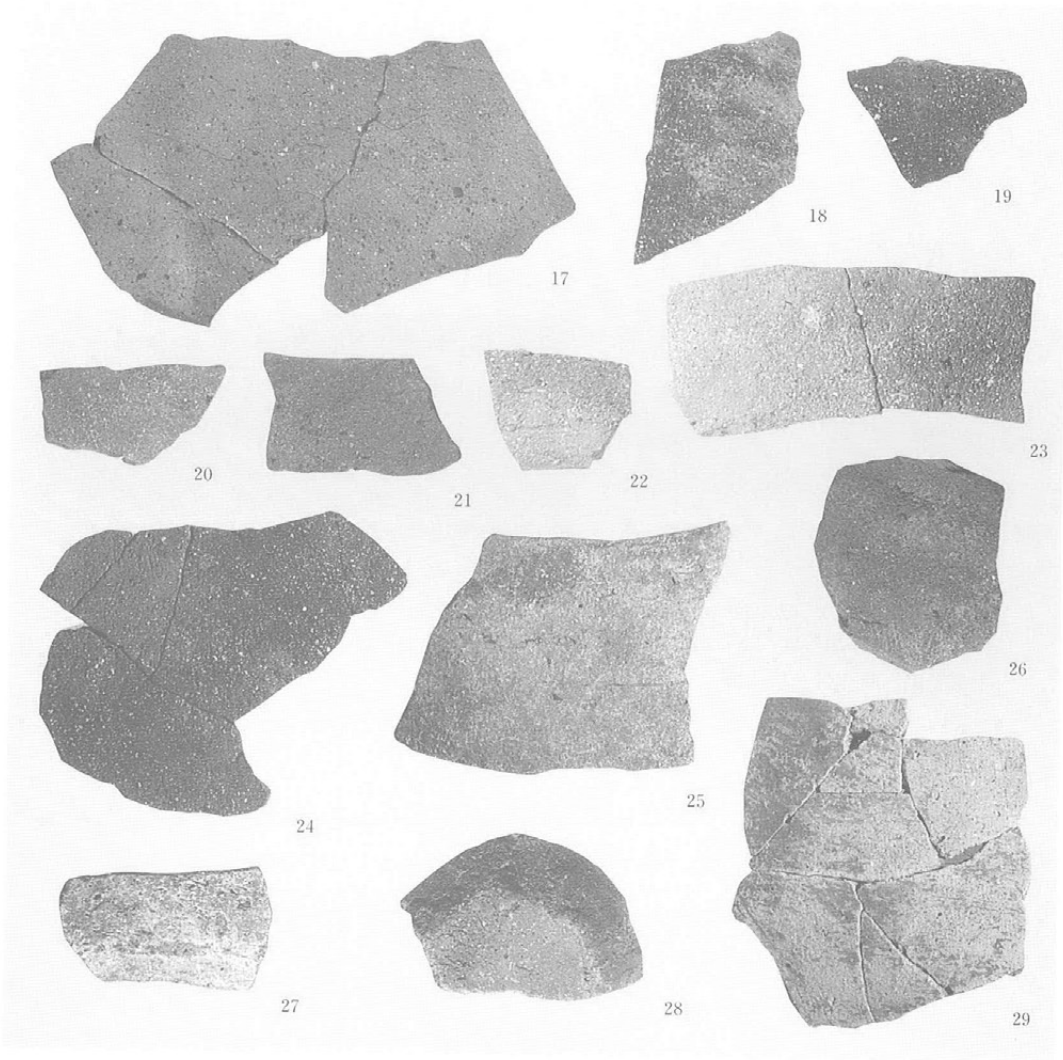
写４　Ｈ１号住居址遺物出土状況



第６図　Ｈ１号住居址出土遺物実測図



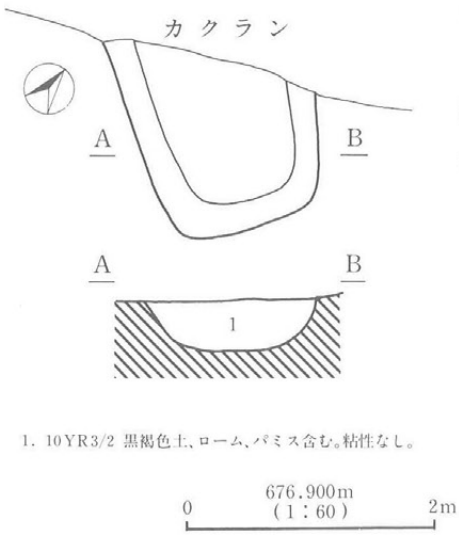
写５　Ｈ１号住居址出土遺物



写6　H１号住居址出土遺物

第２節　土抗

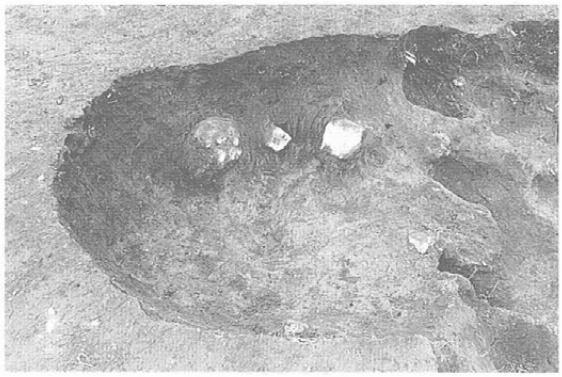
１号土抗



第７図　Ｄ１号土坑実測図

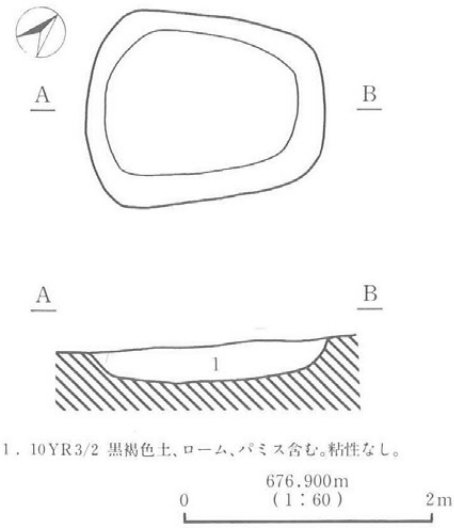
遺構はＦ－うグリットに位置し、遺構の北側の一部をカクランによって切られる。

規模は南北1.6m、東西1.4m、深さ30cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈したとわれる。遺物は認められなかった。遺構の時期は不明である。



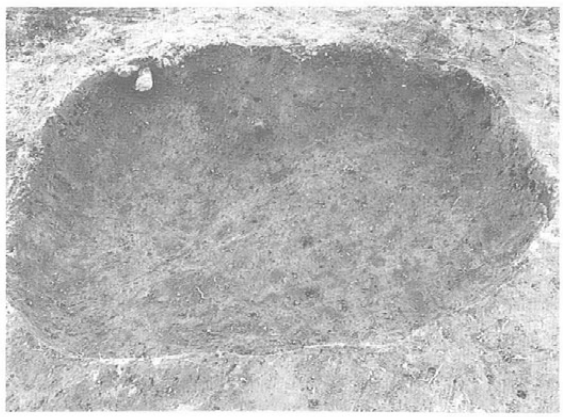
写７　Ｄ１号土坑

２号土坑

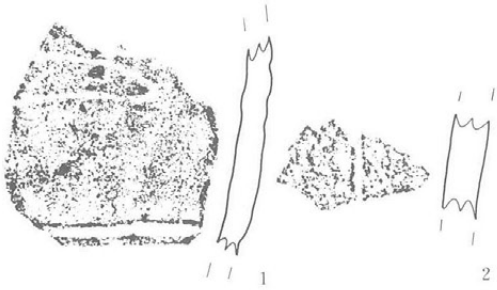


第８図　Ｄ２号土坑実測図

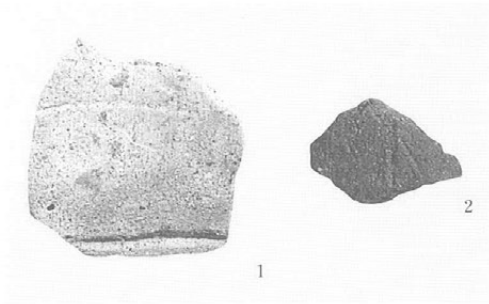
遺構はＧ－えグリットに位置する。南北1.6m、東西1.9m、深さ44cmを測る。平面形は隅丸方形である。遺物は縄文土器片を２片を出土たが、資料が僅かなため、遺構の時期決定には至らない。



写８　Ｄ２号土坑

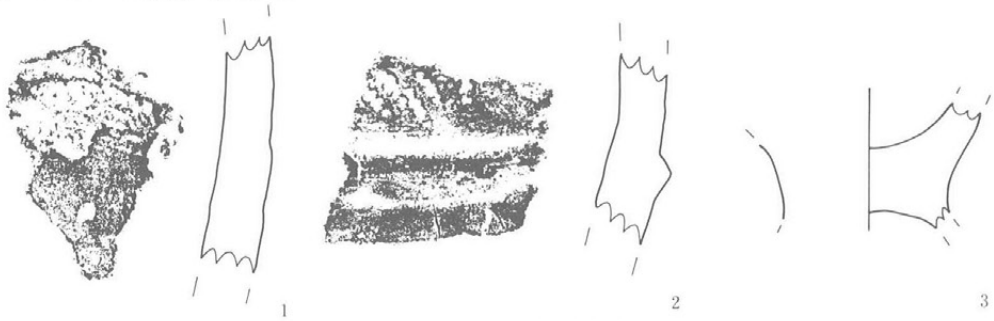


第9図　D２号土坑出土遺物実測図

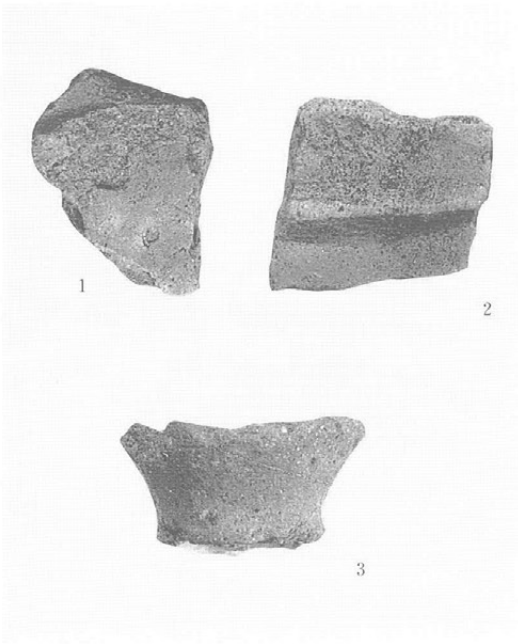


写9　D２号土坑出土遺物

第３節　遺構外遺物



第10図　遺構外出土遺物実測図



写10　遺構外出土遺物

ま　と　め

平成４年度に調査した藤塚遺跡IIからは３軒の竪穴住居址が検出された。この住居址の年代は、出土した遺物の特徴から古墳時代前期とされている。今回、藤塚遺跡IIIの調査によって竪穴住居址１軒を検出した。この住居址はほとんどが農道及び耕作によって破壊され、炉址あるいはカマドも確認することができなかった。しかし、遺物は土師器の甕を中心に出土しており中には甕の表面に赤色塗彩を施すもの、顔料を入れたためか内部が赤く染まっているもの等が出土している。このため、Ｈ１号住居址は、以前発掘された古墳時代前期の住居址と、さほど年代差のない時期のものと考えられる。

写 11　藤塚遺跡III遺物出土状況

写 12　藤塚遺跡III調査区全景

佐久市埋蔵文化財調査報告書

第１集　『金井城跡』
第２集　『市内遺跡発掘調査報告書1990』
第３集　『石附窯址群III』
第４集　『大ふけ遺跡』
第５集　『立科Ｆ遺跡』
第６集　『上曽根遺跡』
第７集　『三貫畑遺跡』
第８集　『瀧の下遺跡』
第９集　『国道141号線関係遺跡』
第10集　『聖原遺跡II』
第11集　『赤座垣外遺跡』
第12集　『若宮遺跡II』
第13集　『上高山遺跡』
第14集　『栗毛坂遺跡』
第15集　『野馬久保遺跡』
第16集　『石並城跡』
第17集　『市内遺跡発掘調査報告書1991』
（１月～３月）
第18集　『西曽根遺跡』
第19集　『上芝宮遺跡』
第20集　『下聖端遺跡III』
第21集　『金井城跡II』
第22集　『市内遺跡発掘調査報告書1991』
第23集　『南上中原・南下中原遺跡』
第24集　『上聖端遺跡』
第25集　『上久保田向IV』
第26集　『藤塚古墳群・藤塚II』
第27集　『上久保田向III』
第28集　『曽根新城遺跡Ｖ』
第29集　『山法師Ｂ，筒村Ｂ遺跡』
第30集　『市内遺跡発掘調査報告書 1992』
第31集　『筒村遺跡Ａ，山法師遺跡Ａ』
第32集　『東ノ割遺跡』
第33集　『聖原遺跡VII』
『下曽根遺跡Ｉ』
『前藤部遺跡２』
第34集　『西一本柳遺跡Ｉ』
第35集　『市内遺跡発掘調査報告書1993』
第36集　『蛇塚ＢIII』
第37集　『西一本柳II』
第38集　『南下中原遺跡II』
第39集　『平賀中屋敷遺跡』
第40集　『寺畑遺跡』
第41集　『曽根新城Ｉ・II・III・IV・VI
上久保田向Ｉ・II・Ｖ・VI・VII
西曽根遺跡II・III』
第42集　『寄山』
第43集　『権現平遺跡・池端遺跡』
第44集　『寺添遺跡』
第45集　『市内遺跡発掘調査報告書1994』
第46集　『濁り遺跡』
第47集　『上芝宮遺跡Ｖ』
第48集　『池端城跡』
第49集　『根々井芝宮遺跡』

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第50集
藤塚遺跡III
長野県佐久市大字塚原字藤塚遺跡発掘調査報告書
1997年３月
編集・発行　佐久市教育委員会
〒384-01　長野県佐久市大字中込3056
埋蔵文化財課
〒385　長野県佐久市大字志賀5953
Tel　0267-68-7321
印　刷　所　株式会社　櫟〈いちい〉